

前向きに生きられる世の中に

つるた りりか
鶴田 莉々花

あなたは人生一度きりならどんな人生にしたいですか？

私は882gの未熟児で生まれました。1歳の時に脳原性運動機能障害両上肢・脳原性運動機能障害移動機能という障害が分かり物心つく時から歩行が困難で保育園の時は歩行器で生活していて小学校に入り車椅子に乗るようになりました。それでも自分で不便を感じる事なく、周囲の温かい手助けのもと、何も考える事なく楽しい日々を送れました。

中学に入学後は部活で吹奏楽部に所属しました。その頃は参加もほとんどできない活動でも、仕方がないと思いながら過ごしていました。なぜ参加できなかったのか？それは部室が3階にあり担当の先生が毎回補助することが厳しい状況にあった為です。

でもそれも心の中で無意識に仕方がないと諦めていたと思います。

高校進学後にさらに厳しい現実を突き付けられました。車椅子対応の高校があまりに少なく、色々探してやっと対応してくれる高校があり、入学出来る事になりました。毎年修学旅行があるとされていたので楽しみにしていました。ですが、入学してから人数が集まらないと行けないと言われ、結局修学旅行に一度も行けなかった事などが今思い出してもショックで辛い思い出です。その時はこの高校しか選択肢がなかったし、そこに進むしかないと諦めていました。

就職活動もまた同じでした。山梨では車椅子での通勤手段がほとんどなく、移動支援も通勤には使えません。自力で通う事は不可能です。そんな中、福祉就労で就労支援を受けることになり1年通いましたがパソコンの習得は私がしたい事ではなかった為、自分は本当は何をしたいのか？何が出来るのか？どんどん見失って行きました。次第に楽しめないやりたくない気持ちが強くなり、自分が誇りを持てる仕事がしたいと思うようになりました。でもその事を言い出す事も申し訳ないと思って言えずにいました。

でもある時ふと思いました。私の人生を自分らしく生きていきたいと思うようになり、初めて私は両親や周囲の期待から逃れ、自分の生き方を歩みたいと思いました。

そんな私の気持ちに沿うように新しい事業所との縁があり、利用することになりました。

その事業所では、やりたい事・楽しい事を見つけようという方針だったので、通い続けるうちに気持ちがどんどん前向きになっていくのが解りました。

実は昔から留学をしたいという夢を抱いていました。それも私には無理だろうと諦めていましたがその夢も前向きに考えられるようになりました。

今まで私は無意識のうちに自分の気持ちにフタをして生きてきました。そして

車椅子で人の手助けを借りている自分は、こんなもんだろうと諦めてしまっていました。でも自分に合う環境さえあったら、きつともっと自分らしく人生を歩んでいけるのだと思っています。

山梨の福祉環境についても、車椅子での生活が難しい生活環境が問題なのではないでしょうか。学校の支援や移動支援についてもそうです。中々移動支援が見つかりません。私は移動支援を何回も変えています。理由はみんな辞めていってしまうからです。他の所を探しても人が足りてないから厳しいですと言われてしまいます。

前に福祉タクシーを利用しようしたら福祉タクシーで乗った所から目的地まで5分くらいの所なのに3000円もかかってしまいました。それでもその福祉タクシーを見つける前に電話で問い合わせたら8000円と言われて流石に高すぎるので辞めました。

どうしても福祉タクシーを使わなくては行けなかったのが使いましたがとてもじゃないけど現実的には使えません。

外に出られるようにある支援なのでしっかりと利用出来るようにしてほしいです。

今後私は、今の事業所でもっと自分に向く事を見つけていきたいと思っています。そして今かつての私と同じように大変な思いをしている車椅子の皆さんに声を大にして伝えたいです。あなたは色々な事を諦めなくて良いという事を。

少しでも皆さんに私の気持ちが届いてくれたら嬉しいです。